

園の自己評価表(総評)

令和7年度

評価の視点

子どもの活動や状態に対する評価と、保育士自身の保育や援助、環境設定等に対する評価を総合的に判断して、各月及び年間の評価を行う。詳しくは以下を参照とする。

評価の視点参照	評価	自己評価
設定したねらいの保育ができ、クラスの達成も確認できたか。	A	年齢に沿ったカリキュラムを作成し、月案や日誌等で達成を確認できている。
子どもの状況に応じて柔軟な保育ができていたか。	B	子ども達の個性や特性に配慮し、保育を行うことができた。職員同士で話し合い、臨機応変に対応するよう務めた。
子どもの発達過程に沿った、また発達段階に必要な経験をさせられたか。	B	子ども達一人ひとりの発達を理解し、職員同士で話し合いながら、それぞれに合った保育ができるよう務めた。
子どもの安全面への配慮は適切だったか。	C	コーナー保育を取り入れ、子どもが主体的に遊べる環境作りを行った。子ども達に大きなケガの無いよう、より環境作りを整備していくよう務める。
養護的な配慮ができたか。	A	子ども達の毎日の検温や体調管理を徹底し、感染症が発生した際、内外共に掲示やメールなどでも周知を行った。
保育者間で連携は取れていたか。	C	毎月の職員会議で情報共有をしたり、保育者間で連携を取り保育に努めた。園全体でより情報共有を行い、連携を取りやすい体制を整備するよう務める。
保護者への連絡は適切に取れていたか。	B	連絡事項はコドモンや電話を通して保護者に伝え、登降園の際には直接保護者とコミュニケーションを取るよう務めた。
必要な記録の取扱いや保存は適切だったか。	C	一人ひとりの発達を細かく記録し、記録した子どもの情報を必要に応じて保育者間で共有し、適切に記録や管理を行った。より徹底して記録するよう務める。
職員全員が専門職であることを理解し、自らの向上に努め結果を出すことができたか。	B	毎月の研修に職員全員が積極的に参加し、各自が保育向上のために目標に沿って保育活動を行うことが出来た。さらに各自が積極的に様々な研修に参加するよう務める。

総 評

・子ども達の安全を考慮して主体的活動を尊重する保育を目指して環境作りや保育内容、職員体制を見直し進めていきたい。また、子ども達の成長や日々の活動、保育目標を保護者にも共有し、保育者と保護者が相互に理解し合い子ども達を支えていけるよう努めていく。

・より保育の専門性を高める為、園内研修だけでなく園外研修を行う等、職員一人ひとりの向上意識を高め、園の保育の質の向上に繋げられるよう努めていく。

・職員間や保護者への連絡事項も記録や共有をしっかりと行い、怠らないよう声を掛け合い連携を取るよう努めていく。